

(様式2)

## 県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 米子西高等学校

重点項目	大学進学	提出日	平成31年4月24日
------	------	-----	------------

1 学校目標	
質の高い授業と親身な指導を通して、進路実現に必要な学力をつけるとともに、地域社会の多様なニーズに応え、郷土に貢献する「知、徳、体、志」のバランスのとれた人材を育成する。	
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
自己実現を可能にする学力の向上（高い志の育成、質の高い授業の実践、学習習慣の確立、国公立大学に合格できる力をつけた生徒の増加） <数値目標> ・アンケートにおける生徒の達成感に関する肯定的な回答が70%以上、教師の指導力に関する肯定的な回答が80%以上 ・全教員でアクティブラーニングに取り組む ・家庭学習時間調査で次の目標を達成する。 平日：1・2年生2時間以上、3年生3時間以上 休日：1・2年生4時間以上、3年生5時間以上 ・1月進研模試で偏差値50以上の生徒数が1年生で160人以上、2年生で140以上 ・国公立大学及び難関私立大学の現役合格者が人以上100（国公立大学75人以上、難関私立大学25人以上）	昨年度より国公立大学の合格者数は減少した。また、家庭学習時間も減少し、模試の結果も各学年とも低調であった。 <数値結果> ・12月に行ったアンケートでは、各学年で達成感に関しては45%～68%、教師の指導力に関しては54%～67%であった。 ・全教員でアクティブラーニングに取り組むことができた。 ・家庭学習時間は、各学年とも目標に達しなかった。また、前年に比べて減少した学年もあった。 ・進研模試結果も目標に達しなかった。また、各学年とも年々低下傾向にある。 ・国公立大学及び難関私立大学の現役合格者は66人（国公立大学48人、難関私立大学18名）であった。
3 実施事業	
【高等学校課事業】	
・講師派遣事業 平成29年度に講師派遣事業で行った全教員でのアクティブラーニングを取り入れた授業及び県外講師を招いての研究授業、示範授業(3回)を平成30年度も学校独自事業で行い、研究授業及び示範授業に合わせて県外から指導助言者を招いて職員研修を行うことで、アクティブラーニング型授業の一層のブラッシュアップを図った。	

(様式2)

<p>・土曜授業等実施事業</p> <p>年間 23 回程度鳥取大学医学部の大学生等を招聘して、土曜日に学校を開放し、自学・自習形式の学習会を午前中 3 時間半程度開催した。</p> <p><b>【独自事業】</b></p> <p>・小論文・教科指導力向上</p> <p>外部講師による生徒を対象とした小論文研修および大手予備校に 3 名の教員を派遣して研修(アクティブラーニング研修含む)を行った。</p> <p>・長期休業中の学習会</p> <p>夏季休業中の 5 日間外部施設を利用した 1 日 6 時間以上の自学自習を体験する事で、計画的・主体的に学習する態度の育成を図った。</p> <p>・英語力向上事業</p> <p>英検 2 級以上の取得を目指した英検受験講座および英検受験のための示範授業と授業計画をどのように構築するかを研究した。また生徒の英語力向上で先進的な研究をしている方を外部から講師として招き、本校の英語教育の改革に役立てた。</p> <p>・米西版授業改革アプローチ事業</p> <p>月毎に教科を指定し、その教科の全教員が研究授業を含めたアクティブラーニング(ICT 活用も含む)に取り組み、それに合わせて他県の教員を招いての師範授業を行いさらなる手法のブラッシュアップを図った。また、高等学校課事業「講師派遣事業」と連動させ、相乗効果を図った。</p>
<p>4 総合所見 (成果・評価)</p> <p>学力の向上に関する数々の取り組みを行っているが、結果に結びついていない現状がある。入学してくる生徒の学力の広がりや家庭環境、生徒の気質の変化などに対応が不十分である可能性は否めない。鳥取県西部地区において本校に求められている地域を支える人材の育成の観点からも学力の向上は欠かせない。今後は前例踏襲的な取り組みではなく、生徒の現状を分析した上で新たな取り組みを検討する必要がある。</p>

※枚数任意